

平成30年度全国公立学校教頭会研究大会 札幌大会に参加して

青森市立浪打小学校 森山 浩平

□ 青森県小中学校教頭会夏季研修会全体会（平成30年8月10日）における札幌大会についての報告原稿を掲載。

平成30年8月1日、2日、3日の3日間、約2700名が参加し、札幌コンベンションセンターを中心会場に行われた。1日目は午後から開会行事とシンポジウム。2日目は7つの課題、10分科会に分かれての研究協議。3日目は記念公演という内容で行われた。

1日目、会場に着くと郷土文化紹介ということで、札幌市の合唱団とよさこいチームの発表の後、開会行事が行われた。開会行事では、4名の方の祝辞があり内3名が代読、会場に向かうタクシーの運転手の方から2日後に天皇陛下の北海道ご訪問があるということを知っていたので、札幌市は忙しかったのでしよう。



シンポジウムでは、東京大学大学院教育学研究科教授の勝野正章氏をコーディネーターに、十勝バス株式会社社長の野村文吾氏、リレハンメル冬季五輪スキーノルディック複合団体金メダリストの阿部雅司氏、文科省初等中等教育局、教科調査官の安倍恭子氏の3名がシンポジストとして、本大会のサブテーマ、「豊かな心とたくましく生きる力を育む活力ある学校づくりの推進」をテーマとして進められた。

コーディネーターの勝野氏からはまず

- ・ 新学習指導要領のもと、その改訂の背景となった、新しい時代を生き抜くための資質や能力の育成、複雑化・多様化する学校課題への対応、教職員の多重労働や働き方改革等の課題解決のためにはチーム学校としての教育を進めること、教師同士の支え合い同僚性が必要であると話された。

十勝バス社長の野村氏からは

- ・ 父親から引き継いだバス会社を立て直した経験をもとに、利用者の声を丁寧に聞き積極的に改善を図ること、直接利用者に接して働く社員を大切にすること、この努力を継続することで人の心が変わっていくこと、「自分を脇に置いて相手を立てる」「おんくり：恩送り」：感謝の連鎖、「成功者から学べ」ということを述べられた。

金メダリストの阿部氏からは

- ・ 小学校で出会った恩師がきっかけで始めたジャンプ競技。オリンピック代表に選ばれながらも、レギュラーになれなかった悔しさの中、家族や友人の励ましを得ながら、キャプテンとしてチームをフォローし優勝に導き、2度目のリレハンメル五輪ではレギュラーとして金メダルを取った経緯を、荻原健司さんの楽しいエピソードを交えて話された。活力あるチーム作りには、プラス思考で物事に向かうことが

最も大切であり、ネガティブな言葉を言わないで失敗を恐れずチャレンジすること、相手の立場に立って考えること、目標や夢を口に出してということが大切だと述べられた。

文科省の安部先生からは

- ・ 活力ある学校とは子供の笑顔あふれる学校。そのためには学級経営の充実が不可欠で子供たちが主体的・協力的に活動する自治的・自発的な集団づくりが必要である。教頭は職員室の先生、ファシリテーターとして、子供や先生たちに「自分たちの学級」「自分たちの学校」という意識を作ることが活力ある学校づくりにつながっていくということが述べられた。

シンポジスト3名の経験をもとにしたお話は大変興味深く聞くことができた。自分の学校、自分の会社、自分のチームという意識づけが強ければ強いほど、主体的で達成感を得られる学校づくりができると考えさせられた。

2日目は各分科会に分かれての研修。私は特別分科会Ⅱ「北海道から元気の発信」をテーマとして、北海道で有名なセイコーマートを経営する株式会社セコマ代表取締役社長の丸谷智保氏と文科省初等中等教育局 教科調査官の渋谷一典氏のお話をもとに話し合った。

セコマ社長の丸谷氏からは

- ・「北海道を元気にする企業努力とそのスピリッツ」をテーマに、過疎地への出店、高齢化に合わせた工夫や努力、働き手のニーズに合わせた働き方改革等、悲観的な要素の中からポジティブな要素を見付け出すという発想の転換の重要性や、楽観的な発想からモチベーションを上げていくという積極的な取り組みが成功のカギとなることを紹介していただいた。

文科省の渋谷氏からは

- ・「新学習指導要領のもと 笑顔あふれる活力ある学校づくりをめざして」というテーマで、新学習指導要領の改訂の背景を説明された。総合的な学習の時間の授業のビデオを見た後、子供と教師の笑顔に溢れた学校づくりをめざすための教育課程や学習活動について、各グループで教育目標を立てその理念と具体的な取り組みを考えるという演習を行った。

3日目は「組織の活性化を実現するナンバー2の役割」というテーマで、コーチとして、万年最下位だったチーム、日本ハムファイターズの日本一に貢献した、野球評論家・企業研究講師・TVコメンテーターの白井一幸氏の記念公演を聞いた。キレのある楽しい話に引き込まれ、参考になる内容盛りだくさんのお話であった。

チームが日本一になるためには「実力」「チームワーク」「運」が必要で、実力や能力を付けるためには目的に合わせた取り組みが必要であること、チーム全体が同じ目標をもち、一人一人が自分の責任や役割を果たすことからチームワークが培われること、運とは引き寄せるもので、運を呼び込む日常の練習が不可欠であると述べられた。教頭はこの取り組みを実現するために、時には嫌われることも覚悟して勇気をもって職員に関わり続けることが大切であると話された。歯切れ良い話しぶりには説得力があり、お話の内容はもちろんのこと、白井氏の話し方・伝え方も大変参考になった。

帰りの JR の時間の関係で、閉会行事には参加できなかったのが残念でしたが、大変有意義な研修となりました。札幌までおよそ 5 時間の長旅でしたが、研修中は札幌の気温も日中は 30 度まで上がり、短い北海道の夏、大通公園ビアガーデンの生ビールとジンギスカンは最高でした。

以上で札幌大会の報告を終わります。